

動物

の

診察室

から

○ 69 ○

アイリッシュウルフハ  
ウンドの小梅は、昨年の  
暮れに骨肉腫のため、断  
脚手術を行い抗がん剤の  
治療をしています。

そんな小梅の傷がまだ  
癒えない1月の土曜日、  
ハスキー犬のサンちゃん  
が、1週間ほど元気がな  
く、3日前から急にぐっ  
たりしているとのことで  
来院しました。

診察の結果は、脾臓が  
らかなりの出血があり重

できませんでした。この  
状態で輸血なしの手術は  
大変危険です。でも、この  
ままでは確実にサンちゃ  
んは死んでしまいます。

私たちが下した判断  
は、輸血なしでなるべく  
早く手術を行うことで  
す。麻酔医はすぐに準備  
に入り、手術まで血圧を



ふとんを占領する未来(右)たち

## 元氣回復へ希望を託し

### 小梅と未来

体です。赤血球の値が19  
%、正常は45%です。普  
通でしたら、すぐに小梅  
に献血をしてもらい、輸  
血で貧血を改善して、出  
血している脾臓を摘出す  
る手術を行います。

しかし、小梅はもう献  
血することはできません。  
すぐにあちこちに血  
液を手配するのですが、  
すぐに輸血を行うことは

保ち循環をよくするよう  
にかかりきりです。午前  
の診察が終わるとすぐに  
麻酔がかけられ、手術が  
始まりました。出血を最  
小限に抑え、なるべく短  
い時間で手術を終えなけ  
ればなりません。手術は

その手術の翌日、千葉

より、ある犬の血液型の  
検査の報告が入りまし  
た。小梅の病気がわかっ  
てから、同じウルフハウ  
ンドを探していました。

その手術の翌日、千葉

その子の名前は「未来  
ちゃん」。まだあったこ  
とのない子でしたが、名  
前を付けていました。そ  
の日の新潟は猛吹雪、で  
も、すぐに未来を迎えに  
千葉に向かいました。

型を調べてもらっていた

未来の名前は、病気に  
なった犬たちの未来を救  
つてあげるようにつけた  
名前です。もしかすると  
小梅の未来も救うかもし  
れません。

し上げてます。べこり!

くことができず、2日間  
食事もとりませんでした。  
た。

3日目の夜には、私の  
家に連れて行き、小梅た  
ちと一緒にす  
が、部屋の隅  
に隠れてしま  
います。でも